
会長要望シンポジウム

会長要望シンポジウム1 (I-PSY1)

カテーテル的閉鎖術：デバイスの選択

座長:小島 拓朗 (埼玉医科大学 国際医療センター小児心臓科), 座長:上田 秀明 (神奈川県立こども医療センター循環器内科)

2023年7月6日(木) 13:30 ~ 15:00 第2会場 (G4)

[I-PSY1-02]Gore™ Cardioform ASD Occluderの初期成績

○富田 英, 藤井 隆成, 喜瀬 広亮, 大山 伸雄, 清水 武, 長岡 孝太, 石井 瑞子, 加藤 真理子, 山岡 大志郎, 宮原 義典, 佐野 俊二 (昭和大学病院 小児循環器・成人先天性心疾患センター)

キーワード : 心房中隔欠損, 経皮的ASD閉鎖術, Gore™ Cardioform ASD Occluder

目的 Gore™ Cardioform ASD Occluder (GCA)導入後の当科における二次孔心房中隔欠損(ASD)に対する治療戦略と成績を検討すること。対象と方法当院に GCA が導入された2021年9月から2022年12月の当科における ASDの治療法、 GCAの留置が試みられた23例における、欠損孔径、リム欠損などの形態的特徴、用いた GCAのサイズ、成績、遠隔期の Frame Fractureなどについて診療録から後方視的に検討。結果 1.同時期に治療を行った ASDは31例で、2例で外科治療、29例で経皮的 ASD閉鎖を行った。29例中23例では GCAによる閉鎖を試みた。2.GCA留置を試みた23例中22例で留置に成功。7例では GCA以外を留置し、経皮的 ASD閉鎖術の成功率は 100%、 GCAの留置成功率は95.7% 3.GCA以外を選択した理由は、教育的手技3, 術者の選択2, 乳児症例および GCAからの変更、各1例。4.GCAの留置を試みた23例の詳細。①年齢と体重 ; 6-80 (中央値19) 歳、14-79 (49) kg, ②欠損孔径5.0-27.3 (14)mm、バルーンサイジング径9-27(17)mm, ③形態的特徴 ; リム欠損 16例、 Septal Malalignment 3例、 Multiple ASD 3例、④ GCA径 ; 27, 4例 32, 6例 37, 10例 44, 2例 48, 1例。5例では Oversize。⑤広範な大動脈-上方リム欠損で、 Septal Malalignmentをともない最大径27.3mmの 1例では留置を断念し、 Figulla Flex IIに変更。⑥ Multiple ASD 3例では欠損孔間距離が10mm前後の例、2個の副欠損例では1個の GCAで閉鎖、5個の副欠損例では2個の GCAで閉鎖。⑦脱落 心侵食 持続する不整脈など閉鎖栓に関連する有害事象なし。⑧留置後1か月以上経過観察した20例中4例で Frame Fractureを認めたが、有意のイベントはなし。考察と結語乳児例、広範なリム欠損をともなう大きな ASDでは限界があるが、20mm前後までの ASDに対する GCAの留置成績は良好で、リム欠損、 Septal Malalignment、 Multiple ASDなどに優位性が期待される。